

令和 8 年度 神戸市 英語教育改善プラン

目標

英語で伝え合う楽しさを実感できる単元デザインを軸とした授業づくりと、体験プログラム及び国際交流の充実を通して、国際的な活躍の基盤となる英語力の育成を目指す。

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①ALTや外国の人と英語で話したいと思う児童の割合に増加傾向がみられる。

肯定的な割合(%)	7月	12月
	66	68

(R7神戸市英語教育意識調査)

②外国や外国の文化に興味がある児童の割合に増加傾向がみられる。

肯定的な割合(%)	7月	12月
	70	74

(R7神戸市英語教育意識調査)

①「授業の内容はよく分かる」は一定の成果は見られるものの引き続き改善が必要。

肯定的な割合(%)	R6	R7
	76.6	77

(R6全国学力・学習状況調査・R7神戸市英語教育意識調査)

②「英語やジェスチャーで伝えることができる」と答えた割合は相対的に低く、改善が必要。

肯定的な割合(%)	7月	12月
	62	65

(R7神戸市英語教育意識調査)

2. 要因分析

①ALTと教員に研修を実施。協同授業や体験プログラムの見直しを図ったことで、実施内容がより効果的に改善されたものと考えられる。

②各校がALTと協同し、英語・異文化に触れる場を設置・拡充したことにより、児童が異文化に触れる機会が確保され、外国への関心の向上につながったと考えられる。

①児童が主体的に思いを伝え合い、表現を活用する授業に差異があることが要因と考えられる。

②英語の会話文や単語の練習に意識が偏り、英語で伝え合う楽しさを実感するまでに至らないことが、主体的に英語を学習しようとする児童が少ない要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

「英語教育の推進に関する取組方針」に基づき、以下の視点で本市の英語教育を進めていく。

1. 英語で伝え合う楽しさを実感できる授業づくり①②

- ・英語教育指定校による単元マニュアルを軸とした授業改善モデルの構築と発信
- ・小中高共通のスキルアップマニュアルを活用した授業作りのための研修
- ・ALTとの効果的な連携に向けた取組の充実
- ・「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の活用促進
- ・子供の意識調査の実施及び結果のフィードバックによる授業改善

2. ALTとの協同による「体験プログラム」を通した実践的な学びの創出①②③

- ・授業と関連付けた対話型体験プログラムの推進
- ・発表活動など、学習成果を発信する機会の充実
- ・体験プログラムの事例収集および活用促進

3. 「国際交流」を通した多様性を理解する姿勢の育成②

- ・校内における英語や異文化に触れる場と充実と活用
- ・学校間でのオンラインによる英語交流の実施
- ・海外の同世代とのオンライン交流の充実及びノウハウの共有
- ・姉妹都市等との交流活動の推進

参考URL:

神戸市教育振興基本計画



「英語教育の推進に関する取組方針」



令和 8 年度 神戸市 英語教育改善プラン

目標

英語で伝え合う楽しさを実感できる単元デザインを軸とした授業づくりと、体験プログラム及び国際交流の充実を通して、国際的な活躍の基盤となる英語力の育成を目指す。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：57.5％⇒R8：60％）

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
（パフォーマンステスト含む）
（AIを除く）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒数の割合が増加。

R6	R7
56.6%	57.5%

（R6教員による意識調査 R7英検IBAの結果より）

②ALTとの協同授業における効果的な役割分担を意識した授業の推進。

未だ改善が必要な点

① 言語活動実施状況や生徒のコミュニケーション能力向上において一定の成果が見られるものの引き続き改善が必要。

肯定的な回答割合(%)	7月	12月
言語活動	75	77
コミュニケーション	73	76

（R7 神戸市英語教育意識調査より）

②校内国際交流活性化につながる環境整備の更なる充実。

2. 要因分析

①英検IBA(RL)により、客観的な指標に基づく英語力の把握が可能となったことで、その結果を踏まえた指導改善が進み、生徒の英語力向上にもつながったと考えられる。

②教員とALTとの合同研修を通して、目指すべき授業について共通理解が進み、授業改善が進んだと考えられる。

①発信技能を強化する授業を推進しているが、学校間の差が依然として見られる。また、「言語活動を通じた指導」について、教員間での認識に違いがあることが、授業改善が進みにくい要因であると考えられる。

②R7年度より全校で校内の国際交流活性化につながる環境整備を推進したが、学校間の差が見られた。効果的な実践事例を十分に周知できなかったことが原因であると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

「英語教育の推進に関する取組方針」に基づき、以下の視点で本市の英語教育を進めていく。

1. 英語で伝え合う楽しさを実感できる授業づくり①②①

- ・英語教育指定校による、単元デザインを軸とした授業モデルの構築と発信
- ・小中高共通のスキルアップマニュアルを活用した授業作りのための研修
- ・ALTとの効果的な連携に向けた取組の充実
- ・「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の活用促進
- ・子供の意識調査の実施及び結果のフィードバックによる授業改善

2. ALTとの協同による「体験プログラム」を通じた実践的な学びの創出①②

- ・授業と関連付けた対話型体験プログラムの推進
- ・発表活動など、学習成果を発信する機会の充実
- ・体験プログラムの事例収集および活用促進

3. 「国際交流」を通じた多様性を理解する姿勢の育成②

- ・校内における英語や異文化に触れる場の充実
- ・学校間でのオンラインによる英語交流の実施
- ・海外の同世代とのオンライン交流の充実及びノウハウの共有
- ・姉妹都市等との交流活動の推進

参考URL:

神戸市教育振興基本計画



「英語教育の推進に関する取組方針」



令和 8 年度 神戸市 英語教育改善プラン

英語で伝え合う楽しさを実感できる単元デザインを軸とした授業づくりと、体験プログラム及び国際交流の充実を通して、国際的な活躍の基盤となる英語力の育成を目指す。

○CEFR A 2 レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7 : 48.4% ⇒ R8 : 55%)

目標

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加。

(R6:36.2% ⇒ R7:48.4%)

②CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加。

(R6:13.3% ⇒ R7:32.1%)

③英語担当教師の英語力の状況が改善(CEFR B2レベル相当以上)。

(R6:87.9% ⇒ R7:95.0%)

④英語担当教員の授業における英語使用状況が改善。

(R6:67.7% ⇒ R7:71.0%)

①国際科、普通科と、その他学科における指導法の工夫を共有する機会（研修の回数）が限定的である。

2. 要因分析

①②について

・令和 5 年 9 月策定の神戸市「英語教育の推進に関する取組方針」に基づく授業改善、および、令和 7 年度「指導の重点」（義務教育用）を念頭に置いた小中高等学校接続を意識した授業改善の成果。

③④について

・言語活動を中心とした授業づくりの影響。
・パフォーマンス課題を単元デザインに位置づける授業づくりを意識した成果。

①について

・探究を軸とした市立高校8校の協働性は進んでいるが、教科として協働するための研修の日程調整が困難。

3. 目標を達成するための施策・事業

・小中高等学校共通の「英語教育スキルアップマニュアル」を活用し、「英語教育の推進に関する取組方針」に基づき、以下の視点で本市の英語教育を進めていく。

1. 英語で伝え合う楽しさを実感できる授業づくり①②①

- ・英語教育指定校による授業改善モデルの構築と発信
- ・公開授業及び研修の実施による授業改善の推進
- ・ALTとの効果的な連携に向けた取組の充実
- ・「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の活用促進
- ・子供の意識調査の実施及び結果のフィードバックによる授業改善

2. ALTとの協働による「体験プログラム」を通した実践的な学びの創出①②

- ・授業と関連付けた対話型体験プログラムの推進
- ・発表活動など、学習成果を発信する機会の充実
- ・体験プログラムの事例収集および活用促進

3. 「国際交流」を通した多様性を理解する姿勢の育成②

- ・校内における英語や異文化に触れる場の充実
- ・学校間でのオンラインによる英語交流の実施
- ・海外の同世代とのオンライン交流の充実及びノウハウの共有
- ・姉妹都市等との交流活動の推進

参考URL:

神戸市教育振興基本計画



「英語教育の推進に関する取組方針」



神戸市教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	55	38	55	36.2	60	48.4	55		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	20	27.9	30	13.3	35	32.1	40		45	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	85	96.2	100	71	100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）	70	30.8	70	54.8	75		80		85	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）		100		100		100		100	
		公表（％）		80		100		100		100	
		達成状況の把握（％）		100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	90	78.1	90	87.9	95	95.0	95		100	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）	80	65.4	80	67.7	80	71.0	85		90	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	60	54.1	60	56.6	60	57.5	60		65	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	75	72	75		80		85		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）	100	91.9	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）		100		100		100		100	
		公表（％）		70		75		80		85	
		達成状況の把握（％）		80		85		90		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	50	52.1	55	56.5	60	63.7	65		65	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）	75	70.7	75		80		80		80	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）		100		100		100		100	
		公表（％）		70		90		95		100	
		達成状況の把握（％）		80		93		97		100	